

格言、いつの時代も

中部トラック総合研修センター（愛知県みよし市）

の物流大学校講座でお世話になった、故・安藤小四郎専務から頂き、とても重宝しているのが『成語林』故事ことわざ慣用句』（旺文社編）。格言や四字熟語など1万7千語が収録され、それぞれ詳しい解説が付いている。

先人たちが編み出した格言やことわざには、いつの時代でも変わらない普遍的な価値観がある。企業経営のヒントがあるだけでなく、人間が生きる上で必要な指針となるものだ。トラック運送事業を取り巻く環境は、大きく変わりつつある。変革期だからこそ、基本に立ち返る意味で、先人

の言葉を大切にしたい。

最近、読んだ本で一番面白かったのは、『忍者の教科書』（山田雄司著、伊賀忍者研究会編、笠間書院）。伊賀市は、忍者の里として全国的に知られている。観光資源としても最重要コンテンツの一つになっているが、この本を読み、忍者について自分は何も知らなかったことに気付き、目からウロコが落ちた思いがした。

忍者という職業の成り立ちや仕事内容など実像を詳しく紹介しているが、彼らは雇い主たる戦国武将の陰で働き、決して歴史の表舞台に立つことは無かった。目標達成のため、人知れず努力し、成功しても自分の手柄にはならない。文字通り「耐え忍ぶ」



り「耐え忍ぶ」存在なのだが、忍者のマネジメントは、現代のどんな組織にも通じるものがある。（三重県伊賀市）